

歴史から未来へ—「北の大地」のまちづくり、人づくり、心そだて

# こころとからだが癒される まちづくりを目指して

～「北海道地域創造フォーラム」開催にあたって～

工藤 栄光◎豊富町長

私たちのまち豊富町は、日本最北端の「利尻、礼文、サロベツ国立公園」の一角にある23,000ヘクタールにおよぶサロベツ湿原や兜沼公園、効能豊かな泉質を誇る豊富温泉、澄んだ空気の中でのんびりと草を食む乳牛の楽園、大規模草地などの四季の変化を感じる自然豊かな酪農と観光のまちです。

本町は、現在、保健、福祉、生きがいなどのサービスが提供できる複合施設の整備事業をはじめ、既存企業の育成、新企業誘致などによって雇用の拡充、経済の活性化を図ることを目的とする企業誘致拠点整備事業や、豊富温泉地区の整備、公営住宅の建設や改修、小学校改築整備事業など、生活環境の整備、産業、教育文化の振興、福祉のまちづくりの推進など、次世代に継承する社会資本整備に取り組んでおります。

今、地域社会は大変厳しい環境にあります。豊富町も例外ではありません。

しかし、このような状況だからこそ今一度私たちのまちを振り返りつつ、今、何が大事なのか、何をしなければならないのかを地域住民のみなんで考える機会にしたいと思います。豊富温泉街をはじめとした地域活性化のあり方を共に考え、探しませんか？ みなさんの参加を是非お待ちしております。

## 北海道地域創造フォーラムとは

北海道地域創造フォーラムは、「地域の歴史・文化とそこに生きた先人たち」をキーワードに、先人たちの足跡と知恵を再発見しつつ、これからのまちづくり、人づくり、心そだての手がかりを学び合う場として、平成20年の伊達市での開催を最初に、稚内市(21年)、松前町(22年)、月形町(23年)、北竜町(24年)で開催。本年は、豊富町と東神楽町で開催します。

## 出演者紹介

### 首藤勝次(しゅとう・かつじ)◎大分県竹田市市長、観光カリスマ

昭和28年、長湯温泉の老舗「大丸旅館」の長男として生まれる。直入町役場で企画・広報・国際交流・文化振興等を担当。長湯温泉の歴史を紐解きながら温泉を通じたドイツ等との国際交流を行ない、平成10年、町営温泉療養文化館「御前湯」をオープンさせ、初代館長に就任。その後、大分県議会議員を3期務めた後、平成21年4月から竹田市市長。平成2年、広報マン全国表彰受賞、平成16年、国土交通省第5回「観光カリスマ」に、「ドイツ文化を取り入れた温泉再生カリスマ」の名称で選定される。現在、日本唯一の炭酸泉・長湯温泉を核にした「温泉療養保健制度」を提案し、実施している。著書に『御前湯日記』等がある。

### 合田 純人(ごうだ・すみと)◎NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事

昭和24年生まれ。昭和61年の設立から平成7年まで、健康と温泉FORUM実行委員会事務局長を務めた。世界保健機構(WHO)と公式関係をもつ国際温泉気候連合(FITEC)の、アジア・太平洋協議会(FAPAC)事務局長も1988年の設立以来兼任し、国内のみならず、アジア太平洋地域の温泉の健康利用と温泉保養地の啓蒙普及に務めている。豊富な海外視察の経験を活かし、イタリアやイスラエル、ペルー等の保養地を広く雑誌や新聞でPRし、温泉のグローバル化を積極的に進めている。著書に『温泉からの思考』(森繁哉との対談集。新泉社)など。

### 藤澤重樹(ふじさわ・しげき)◎藤澤皮膚科院長

湯川秀樹京大教授が日本で初めてノーベル物理学賞を受賞した昭和24年(1949)に生まれる。日本大学医学部卒業。国立予防衛生研究所で腫瘍免疫を研究。静岡県立こども病院、社会保険横浜中央病院皮膚科部長、日本大学医学部講師を経て、平成4年、練馬区大泉学園に藤澤皮膚科開業。現在に至る。著書に、『アトピー治療革命』(永岡書店/2004年)、『ステロイドはもういらぬアトピーの治し方』(合同出版/1999年)、『こうして治そうアトピー性皮膚炎』(文研出版/1989年)等。

### 齋藤真由美(さいとう・まゆみ)◎豊富町ふれあいセンター健康相談員

昭和42年、豊富町に生まれる。平成2年から15年間豊富町役場にて保健師として地域保健を担当、平成17年退職。平成18年より豊富町ふれあいセンター健康相談員。全国から訪れる皮膚症状に悩む方々の滞在中の安楽と症状緩和を図るため、現地受け入れスタッフと共に努めている。

### 寺田昭一(てらだ・しょういち)◎PHP研究所地域経営研究センター シニアコンサルタント

昭和32年大阪生まれ。PHP研究所に入社後、一般単行本、教養新書の編集を経て、昭和62年、月刊誌「歴史街道」創刊メンバーとなり、歴史を現代に活かすことをテーマに全国各地を取材するとともに、歴史・文化をテーマとした旅行、テレビ番組、地域活性化事業などの企画運営協力活動に携わる。平成8年～16年、同誌編集長。後、開発出版局部長、企画プロデュース室長等を経て現職。

## 豊富町へのアクセス

【飛行機】稚内空港より車で40分 【JR】JR宗谷線で札幌から約5時間 豊富駅下車  
【車】札幌から約5時間

\*この事業は宝くじ収益金からの支援を受けて実施しています。

